

和歌山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	英会話	
科目基礎情報							
科目番号	0026			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	Time Zones 3 (3rd ed.) Combo Split A with Online Practice						
担当教員	マーシュ デイビッド						
到達目標							
1. 英文で自分の考えを明確に表現できる 2. ショートスピーチを通して、相手に理解してもらう 英語で理解し、コミュニケーションできることは、将来の仕事にとって重要です。最新の研究論文は英語で書かれているので、研究者には英語が必要です。また、自分の研究を英語で書いたり発表したりすることもあるでしょう。エンジニアや技術者にとっても、取扱説明書を理解したり、外国人の同僚とコミュニケーションを取ったりするために、英語は重要です。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1		趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して質疑応答をすることができる。		趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。		趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話しても、簡単な質疑応答をすることができない。	
評価項目 2		趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する話を理解することができる。		趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。		趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話しても、理解することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
D							
教育方法等							
概要	目的は、活発なコミュニケーションを通して英語を学ぶことです。						
授業の進め方・方法	新しい表現と語彙を学び、ペアやグループで練習します。小テストとリスニングで復習します。						
注意点	新しい表現と語彙を学び、ペアやグループで練習します。小テストとリスニングで復習します。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス & Time Zones 3 Unit 1 Which one is Justin?		オリエンテーション 自分や他人を表現する、性格について形容詞。		
		2週	Time Zones 3 Unit 1 Which one is Justin?		自分や他人を表現する、性格について形容詞。		
		3週	Time Zones 3 Unit 2 I'd like to be a pilot.		仕事やキャリアについて話す、キャリアアドバイスを する。		
		4週	Time Zones 3 Unit 2 I'd like to be a pilot.		仕事やキャリアについて話す、キャリアアドバイスを する。		
		5週	Time Zones 3 Unit 3 Please don't feed the monkeys.		公共の場でのルールについて話す、義務や許可を表現 する		
		6週	Time Zones 3 Unit 3 Please don't feed the monkeys.		公共の場でのルールについて話す、義務や許可を表現 する		
		7週	発表		発表する		
		8週	発表		発表する		
	2ndQ	9週	Time Zones 3 Unit 4 How do sloths move?		形容詞や副詞を使って、動物の行動を動物に例えて説 明する。		
		10週	Time Zones 3 Unit 4 How do sloths move?		形容詞や副詞を使って、動物の行動を動物に例えて説 明する。		
		11週	Time Zones 3 Unit 5 I'm meeting friends later.		将来の計画や出来事について話すには、現在形と現在 進行形を使う。		
		12週	Time Zones 3 Unit 5 I'm meeting friends later.		将来の計画や出来事について話すには、現在形と現在 進行形を使う。		
		13週	発表		発表する		
		14週	発表		発表する		
		15週	Time Zones 3 Unit 6 What will Earth be like in the future?		「will」を使って未来予測をする。		
		16週	Time Zones 3 Unit 6 What will Earth be like in the future?		「will」を使って未来予測をする。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の語量の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	前7,前8,前13,前14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16

				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	前7,前8,前13,前14
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前15,前16
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前15,前16
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前15,前16
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
評価割合						
			発表	小テスト	合計	
総合評価割合			70	30	100	
配点			70	30	100	